

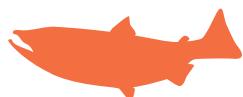


FACTSHEET

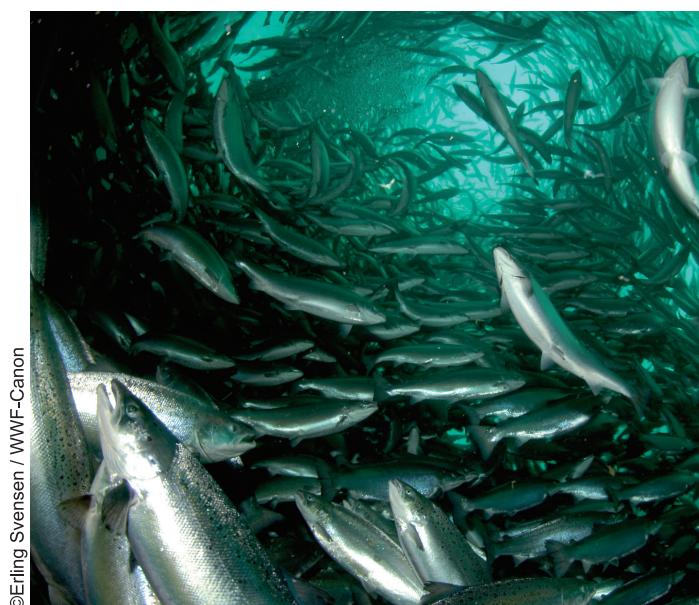
JPN

2014

Responsibility



# 人と自然にやさしい サケ養殖のために



©Erting Svensen / WWF-Canon

## サケとマスとサーモンと

冬、北日本の川に産卵にやってくることでもなじみ深いサケですが、サケの仲間には、ベニザケ、カラフトマスなどさまざまな種類があります(表1)。マスはサケ科に属する魚ですが、分類学的にサケと線引きされているわけではありません。いっぽうサーモンとは、ギンザケ、ニジマス、タイヘイヨウサケなどの総称です。

## 人気増大中のサケ

サケは、マグロと並んで人気の水産物です。日本の家庭で消費する水産物の中ではもっとも多く、水産物の消費が年々減少する中、1980年代と比較すると3倍に増加しています(図1)。

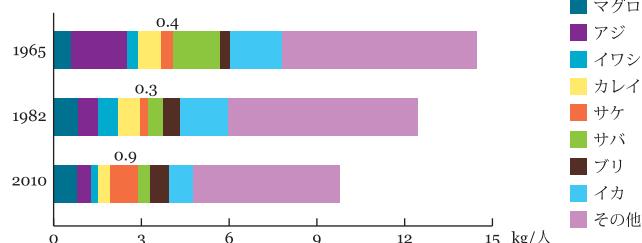
世界的にもサケの消費量は拡大しており、消費するサケの実に7割は養殖によるものです。1980年代以降、養殖生産量が急激に拡大しているのが分かります(図2)。主な生産国はノルウェーとチリで、両国だけで全体の63%に相当します(図3)。日本では主に宮城県でギンザケの養殖が行なわれています。

【表1】 主なサケ科魚類とその名称

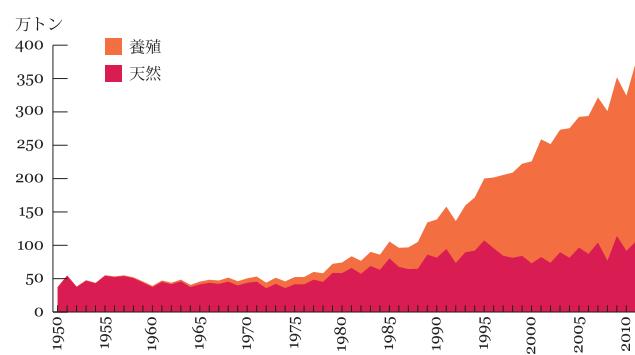
属名	和名	流通名(俗称)
サケ	サケ(シロザケ) ベニザケ ギンザケ カラフトマス サクラマス マスノスケ ニジマス	サケ、秋ザケ、トキザケ ベニザケ ギンザケ マス マス キングサーモン トラウト、トラウトサーモン
タイヘイヨウサケ	タイセイヨウサケ	アトランティックサーモン
	ブランクトラウト	ブランクトラウト

※この他イワナ属とイトウ属が含まれます。

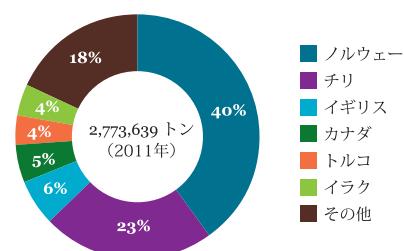
【図1】 鮮魚の1人あたりの購入量 [総務省家計調査]



【図2】 世界のサケの生産量



【図3】 サケ類の国別養殖生産量



## 拡大する養殖と環境問題

養殖は消費者の好みに色や味を合わせ、安定した品質と量を供給できる食糧生産のシステムです。天然のサケの漁獲量が頭打ちとなる中、世界の食糧供給の担い手として需要が高まっています。

しかしながら、養殖業の拡大の中で、天然漁業とは異なるさまざまな問題が起り始めました。

- ・海洋環境の汚染：養殖魚の糞などによって海底がヘドロ化（還元状態）することがあります。
- ・薬品の過剰投与：病気や寄生虫を防ぐための抗生物質などによる人の健康への影響が懸念されています。
- ・病害虫の拡散：狭い生け簀で大量に飼育するため、病気や寄生虫の発生や流行の原因となる可能性があります。

- ・野生化：生け簀から逃げ出した魚は、天然のサケやその他の魚と餌や生息場所などをめぐり競合し、生態系に影響を与える可能性があります。



- ・餌のための乱獲：餌を作るために大量の小魚が漁獲されており、乱獲や資源の枯渇が懸念されています。

また、いくつかの海外の養殖場では劣悪な労働環境の問題も指摘されています。生産者や業界団体も、品質と信頼性の向上のために独自の努力を続けていますが、残念ながら店頭でそれを判別するのは非常に困難です。

## WWFの活動～人と自然のために生まれたサケ養殖のルール～



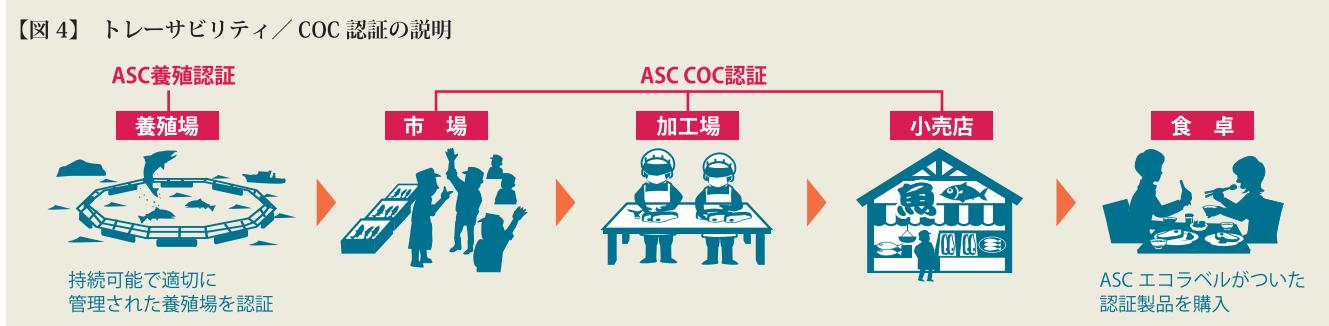
そこで生まれたのがASC（Aquaculture Stewardship Council：水産養殖管理協議会）認証と呼ばれる認証制度です。ASC認証は、養殖が自然環境や地域社会にもたらす影響を最小限に抑えるために作られたグローバルスタンダードです。

養殖業者は、養殖場の運営が自然環境や貴重な野生

生物に深刻な影響を与えていないか、餌やエネルギーを大量に使用していないか、また安全で公平な労働環境が整っているか、第三者による厳しい審査を受けます。その審査を合格した養殖業者が育てた製品だけが、ASCのラベルをつけることができます。

またASCラベルをつけた製品が、加工、流通、販売の過程で他と混同されないよう、トレーサビリティを確保するために、中間業者にも審査を行います。このようにすることで、自然環境保全と社会問題に取り組んで作られた養殖水産物であることが、消費者にも一目で分かり、安心して購入することができるのです。

【図4】トレーサビリティ／COC認証の説明



日本は今なお有数の漁業国であると同時に、水産物の消費大国です。しかし消費者である私たちは、日頃の消費行動が海の環境汚染に繋がっていることを意識することはほ

とんどありません。ASCをはじめとする認証制度は、私たち一人一人が海の環境保全に貢献するためのツールとなります。ASCラベルのついた製品をぜひ応援してください。

